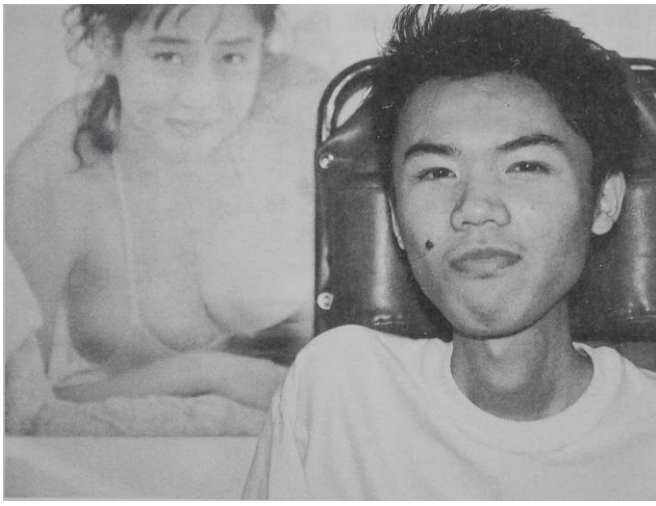


## 第9詩集「今、この時を」より



篠原 豪

1973年 2月 徳島県で生まれる。

1982年 3月 国立療養所徳島病院に入院。

### 時間の針時計

現実に起こっている様々な背景  
顔に入った眼のアイが反応を起こし  
変わった角度から  
醜い影も美しく輝き  
色々な生活を営む姿に  
眼の視覚が鋭くなる  
幾多の時代を超えて  
月日の色が染まる  
毎日が崖っぷちを迎え  
地道に歩んだ人々の出会う関係を  
構図のように結び付ける  
そんな自身の中に  
毎日を接触が悪い機械のように  
いつどんな場面で故障が起きるのか  
時を短くしている針時計

### 一輪の花の変色

季節はずれの緑の花が咲き  
想いもよらない冒険に出会う  
生まれた頃のほのぼのしさに  
昔を懐かしむ温かさがあった  
月日が流れるように  
冬の厳しさが一段と拡がり  
思いもよらない時に立つ  
吊り上がった丸太の枝から落ち  
川の流れの船に乗り  
必死に荒波を超えた  
幾重もの旅を歩み  
生まれた時の緑色が消え  
一皮破った姿が  
生きてきた日々を物語る  
冬の季節となった時  
違った温かさが風となって  
大地を飛び交うように  
懐かしさの想いにふける

### 泥苦いアスファルト

一時の  
過ぎて行った波のような  
生きている実感を  
寄せては返す荒波が  
心身めがけて張り詰めた  
鼓動が鳴り響く  
平坦なゼリー状だった道が  
時期を追うごとに  
いつの間にかじやり道を歩く  
戸惑いが激しくなり  
時間の過ぎて行く壁が  
何重にも迫って来る  
身体の中の心の震えに  
大地も地響きをたてる  
地球の色も  
人間の生き様を物語ってるような  
色に染め  
空から地面まで  
至るところ泥沼化状態が  
日の目をみるように

### 日当たり

日差しの明るさが  
照りつけるころ  
始まりかけた朝の厳しさを  
懐かしみ  
窓越しに見える  
日光の影が妙に個体を映す  
部屋の隅という隅が  
舞台上ヒロインを見上げ  
いかにも金の必要がない  
インスタントライトが  
ヒトと日がふれあう様を  
ありのまま伝えるように  
あらゆるライフワークを  
様々な角度から  
自然と  
そんな光を  
いつまでも照らし合わせるように